

「リアル！！」だった“講演デビュー”

映像ディレクター 高橋夏子

貫田 直義さま

この度は、お話をお聞かせいただき、ありがとうございます。業界の大・大先輩のお話、大変興味深く伺いました。ユーモアあふれるお話に（浣腸のことを、バズーカって！！（笑））、プロデューサー時代は、さぞかし愉快で鋭く、怖い（仕事の鬼！）お方だったのだろうなと感じました。

今回が「講演デビュー」とのことですが、本当に、人を引き付けるお話だと思いました。また、手描きの絵や文字が伝えるものの大きさ！

ゴルフバッグの模様が動く、プリンターの出っ張りが虫のように動く、柵が蛇に変化する、電柱を引っこ抜いて投げる恐ろしい子ども達、そしてリビングに見参するゴリラ（孫の手でひっぱたくと消える）・・・貫田さんが感じられた「夢／現実」の世界を、リアルに感じられるような気がいたしました。

私の義母も、認知症がありましたが、「昨夜は大雨だった。洪水警報が出て眠れなかった。」（実際は、晴れていた）、「変な男がドアの前をうろうろしていて、ドアをドンドンと叩いて、入ってこようとした。」（実際は誰もいない）など、幻聴？幻視？を、口にして、怖がることが何度かありました。

そのたびに、「雨はもう止んだし、川も水が減ったから大丈夫だよ。」とか「男の人はセコムが捕まえたから安心して。もう二度とこないよ。」と、話を合わせていました。

それが良かったのか悪かったのかは分かりませんが、少なくとも、義母は体調不良（寝不足、便秘）や、不安を感じたときにそういうことが起こるようでしたので、できるだけ安心してもらえるような言葉を選んでいました。

貫田さんは「それぞれの人生を思い出し、安心してゆっくりできる空間が大事。人間の核の部分が残る。心に触れあえば、お互い元気になれる。絶望ではなく展望。お互いに支え合う希望の持てる社会に」と、おっしゃっていましたが、本当にその通りだと思います。

それを、どう実現するか、ですね。私は、こうした講座のように、当事者の経験やお気持ちを聞く場をもっと増やすことが、一番大事な点だと思っています。それがメディアの役目だとも思います。

今回、貫田さんのお話はもちろんですが、奥さまや、「かんたき」の皆さまのお話も伺うことができ、大変収穫の大きな時間となりました。（かんたき、初耳でした！）

「デビュー」を果たされた貫田さんが、さらにご活躍の場を広げて下さることを、心から願っております。どうぞ、お元気でお過ごしください。ありがとうございます！